

# H A G I

# 萩

題字は吉田松陰筆跡

AUTUMN ISSUE 2018

89



<休館のお知らせ>

山口県立萩美術館・浦上記念館は  
改修工事の為  
平成30年11月26日から  
平成31年3月31日(予定)まで  
休館します。

# リズムが聞こえ、 情景が浮かぶ

## ～山本晃さんの作品の不思議な魅力とわざ～

金属素材から作品を作り出すわざには、彫金、鍛金、鋳金の3つがあります。鍛金は、金属を槌で叩いて形をつくり、鋳金は鋳型に溶かした金属を流し込んで成形します。

山本晃さんが認定されている「彫金」のわざは、切る・彫る・削る・打つ・延ばす・挟む・穴あけ・付ける・磨く・嵌めるなど、いくつかの動作により作品をつくり上げます。

山本さんはどのような工程を経て作品を完成させるのでしょうか。

まず、パソコンでデザインを考えます。「この時間がとても楽しい」と言います。パソコンは構図を構成する各文様を、簡単に、そして自由にアレンジすることができます。たとえば、二羽の鳥をどのような距離感でデザインするか…(図1)。十分に練ったデザインをもとに紙を使って模型を作り、実際に金属で作る前にそのデザインや工程を確かめます。

素材となる金属は、純金・純銀・純銅・赤銅(金と銅の合金)・四分一(銀と銅の合金)で、順に黄金・白・赤茶・黒・グレー色の表現ができます。とくに、10種類余りの四分一を使ったグレー色は、微妙な色使いを可能にし、表現の幅を広げています。



図1 切嵌象嵌接合せ香炉「椿」平成27年(2015)個人蔵



図2 切嵌象嵌接合せ鉢「精音」平成29年(2017)個人蔵

山本さんは、「切嵌象嵌」と「接合せ」のふたつのわざを特徴としています。この技法の採用により、自身が表現したいものを、より思う通りに表現できると言います。では、このふたつのわざが具体的にどのようなものなのか、<切嵌象嵌接合せ鉢「精音」>(図2)をご覧くださいながら紹介しましょう。「切嵌象嵌」は、器体に別作りの文様を嵌め込んで表現するわざです。嵌め込もうとする文様を「文金」と言いますが、異なる種類の金属で制作し、そしてこれと同じ形に器体のベースとなる金属を切り抜き、2～3ミリ四方大の銀鍍(銀と真鍮の合金)を接合部分に置き、バーナーで溶かし接合します(キツネの部分)。表現された文様の見え方も特徴的で、通常の象嵌とは異なり、ベースを切り抜いて文金を嵌め込むため、内(裏)側にも反転した文様がそのまま現れます(図3)。

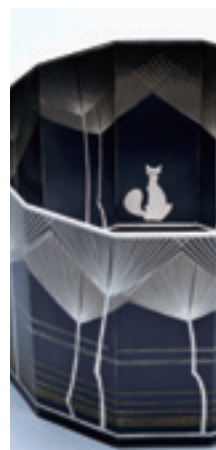


図3 切嵌象嵌接合せ鉢「精音」(内側)

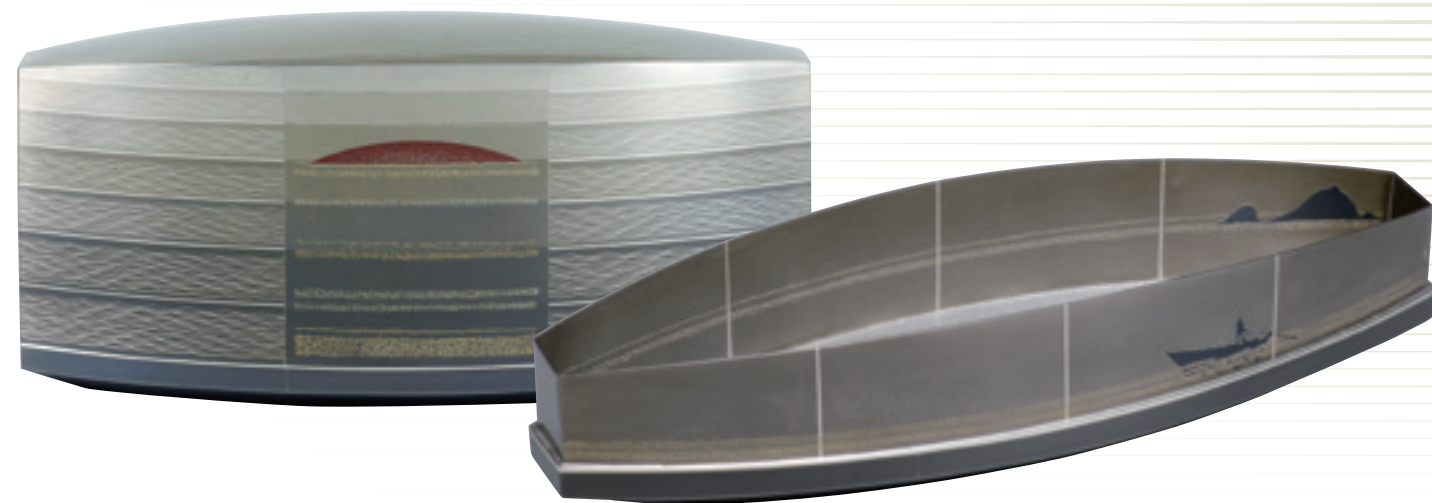


図4 切嵌象嵌接合せ箱「夕風」平成26年(2014)MOA美術館蔵

この見え方をたくみに利用しているのが、<切嵌象嵌接合せ箱「夕風」>(図4)です。文様が内と外の両面から見えることから、内面や外面の捉え方が広がり、海面に浮かぶ小舟と遠くの島の遠近を、作品のなかで実現しているところがおもしろいです。また、蓋には広い海に沈んでいく夕陽が表現されていますが、小さく波立つ海面がとても精巧です。これはもうひとつのわざ「接合せ」による表現です。幾重にも重なり合う波の端は、ベースの金属を波の形に切り、その間に銀線を交互に挟んで銀鍍で接合しており、まるで筆で描いているようです。

また、山本さんが表現する線の表現に「スイッチバック方式」と言う方法があります。糸鋸で線を切る途中で少し戻って角度を変えて枝状に切り、それを繰り返して動きのある線が特徴です。<切嵌象嵌接合せ箱「溪響」>(図5)をご覧ください。蓋の表面にある線は、水の流れを表現していますが、一本一本異なる動きは心地良い水音を響かせ、カワセミもそれに誘われたようです。

山本さんの作品を見る時、そこにはあるはずもないリズムが聞こえ、また、ある情景が浮かび、見る者の心を動かします。山本さんの作品にはそのような気持ちを喚起させ、リズムや情景を想起させる不思議な力があります。このような不思議な体験は、山本さんの絶妙な文様配置によるデザインが情緒ある作品をつくり出し、見る人の心にスイッチをいれるのではないのでしょうか。「この時間がとても楽しい」と言う山本さんの言葉が思い起こされます。

市来真澄(当館学芸課主任)



図5 切嵌象嵌接合せ箱「溪響」平成28年(2016)文化庁蔵





切嵌象嵌接合せ鉢「箱音」平成29年(2017) 個人蔵

# 彫金のわざと美 山本晃の 詩想と造形

【上部背景】切嵌象嵌接合せ鉢「白椿」(部分)平成21年(2009) 山口県立萩美術館・浦上記念館蔵

2018年 10月2日(火)～11月25日(日)

休館日 10月15日(日)、10月29日(日)、11月12日(日)  
開館時間 9:00～17:00(入場は16:30まで)  
会期中、毎週金曜日は19:00まで開館(入場は18:30まで)  
観覧料 一般1,000(800)円、70歳以上の方・学生800(600)円  
※( )内は前売りおよび20名以上の団体料金。  
※18歳以下の方および高等学校、中等教育学校、特別支援学校の生徒は無料。  
※身体障害者手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、精神障害者保健福祉手帳の提示者とその介護者(1名)は無料。  
※前売券はローソンチケット(Lコード62475)、セブンチケットでお求めいただけます。  
主催 山本晃展実行委員会  
(山口県立萩美術館・浦上記念館、朝日新聞社、yab山口朝日放送)  
後援 山口県教育委員会、萩市、萩市教育委員会、公益社団法人日本工芸会  
特別協力 エフエム山口



昭和19年(1944)山口県光市に生まれた山本晃は、インダストリアルデザイナーとして東京で活動した後、昭和49年(1974)に郷里の光市に戻ってほぼ独学で彫金の創作活動を始めました。  
異なる金属板を銀鍍でつなぎ合わせて模様を創り出す「接合せ」、模様を輪郭で切り抜いて異なる金属板を嵌め込む「切嵌象嵌」といった、複雑で高度なわざを駆使し、色金の多彩なグラデーションを表現した器などのかたちに、山本は金属の堅さや冷たさを感じさせない豊かな詩情世界を表現してきました。

平成26年(2014)10月に重要無形文化財「彫金」の保持者に認定された、そのわざと美の洗練を初期作品から最新作までの約140点で紹介いたします。

## イベントのご案内

### 〈記念講演会〉「近代の金工と山本晃」【聴講無料・申込不要】

講師 榎本 徹氏(岐阜県現代陶芸美術館顧問)  
日時 10月6日(日) 13:30～15:00  
会場 本館講座室(84席)

### 〈アーティスト・トーク〉【要観覧券・申込不要】

山本晃さんから、作品についていろいろ話が聞けるチャンス!  
日時 10月14日(日)・11月25日(日) 14:00～15:00  
会場 本館2階展示室

### 〈ギャラリー・ツアー〉【要観覧券・申込不要】

学芸員による作品解説  
日時 10月7日(日)・10月21日(日)・10月28日(日)・  
11月4日(日)・11月18日(日) 11:00～12:00  
会場 本館2階展示室

### 〈ワークショップ〉「金工のわざを知る」

銀で自分だけのペンダントづくりに挑戦!!

講師 山本 晃氏  
(重要無形文化財「彫金」の保持者)  
岡本佳子氏  
(金工作家)

日時 11月11日(日) 13:00～16:30  
会場 陶芸館多目的室  
定員 16名

※こちらのイベントは定員に達したため応募を締め切りました



接合せ八種箱「秋映」平成7年(1995) 光市文化センター蔵

浮世絵

## 明治150年 浮世絵に見る幕末明治⑥ 明治新政府

展示室1 10月30日(火)～11月25日(日)



「枢密院会議之図」井上安治 大判錦絵3枚続 明治21年(1888)

明治150年を記念し、年間を通して幕末明治の浮世絵版画を紹介する全6回のシリーズ。

最終回にあたる第6回のテーマは、明治新政府です。明治4年(1871)に行われた廃藩置県によって中央集権国家となった新政府は、「富国強兵」と「殖産興業」を政治方針に掲げ、様々な事業を行いました。それは近代産業を発展させることで、経済的な基礎を固め、軍備の充実をはかり、先進諸国と対等の立場を得ようとするもので、不平等条約改正を目的としていました。

また憲法制定と国会開設の準備が進み、政府の機構も近代化していきます。

今回は、明治23年(1890)の国会開設までの新政府の政策に注目していきます。

浮世絵

## 明治150年 浮世絵に見る幕末明治⑤ 小林清親が描いた東京風景

10月2日(火)～10月28日(日)

小林清親「九段坂五日夜」  
横大判錦絵  
明治13年(1880)



東洋陶磁

## 写しのカタチ

8月21日(火)～11月25日(日)

辻清明「信楽帽子」  
寄贈者 辻啓子、辻清一、島田史子、辻文夫



工芸

## 山口県の工芸

10月2日(火)～11月25日(日)

金子信彦「天空の華」  
平成16年(2004) 当館蔵



茶室

## 齋藤敏寿の茶室 熔結 The adhesion of melt 2018.4.1(sun)-11.25(sun)

## クライマックス茶会のご案内

作家の齋藤敏寿さんをお迎えし、作品制作や展示についてのお話を聞きながら、齋藤さんと萩焼作家の茶碗でお茶をたのしめます。お気軽にご参加ください。

日時 11月25日(日) 1席につき8名様程度  
① 15:00～15:30  
② 15:45～16:15  
③ 16:30～17:00  
参加費 500円(茶菓子つき)  
※電話(0838-24-2400)にてお申し込みください。



## いわゆる「萩の七化」について（続）



渋谷英一 黒彩器-相- 2016年 高35.0cm、幅60.0cm、奥行40.0cm 当館蔵（現在形の陶芸 萩大賞展Ⅳ 大賞受賞作）

### 「茶陶-萩」の近代

いまから150年前の明治維新を契機に、近代化するなか西洋的工業化の大きな波が興りました。そのうねりに飲み込まれてしまった在来産業のうち、近代的手法を導入した効率化を達成できなかった地方の小規模な手工業者たちは、新政府が紆余曲折しながら推進した経済政策のいずれでも後進分野とされ、ときには封建制の残滓などとさげすまれ、あげくは負の遺産と見なされるほどの逆境に追い込まれてしまいました。つまり幕藩制の庇護下に発達した手工的在来産業は、西洋近代化の圧倒的な社会趨勢のなか、機械制大工業とは別のやり方で自らの生存を掛けた闘いを挑まざるを得ない状況に追い込まれたのです。

ところが、このとき在来産業に生じた葛藤と近代社会におけるその後の展開は、流入し続ける欧米式工業経済に抗うものではなく、むしろそれに寄り添うような積極的な反応だったことを忘れてはならないでしょう。在来産業としての伝統技術の特色を抽出・洗練させて商品開発の強みとするという意識の変化は、在来産業が欧米の近代工業経済と衝突するなかで生まれたといえます。これが、封建的身分制からの解放による上昇志向と明治初期の官営事業でデモンストレーションされた西洋文明への憧憬

とが相乗してもたらした、民衆の購買意欲に支えられていたことはいうまでもありません。こういった国内での需要の拡大が、機械化・工業化に遅れた在来産業にも相応な技術革新を促し、より魅力的で上質な商品開発能力をもった産業構造への脱皮を促したのです。

大正から昭和初期にかけて呉服店から発展して消費社会近代化の先駆もなった百貨店を舞台に発表活動をした、十二代坂倉新兵衛（1881～1960）はこのような時代的要請に応じて果敢に行動した窯元の一典型でした。かれが自らの販売拡張策を通して成し遂げた「茶陶-萩」のブランド化は、衰亡の危機にあった地場産業の安定化に道筋を付けたばかりか、萩焼を近代日本における伝統的手工業（工芸）として認識させた点において高く評価されます。

まさに「萩焼中興の祖」と呼ぶに相応しいかれの奮闘ぶりは、17世紀初期に開窯した萩焼を侘数寄に寄り添ってきた伝統ある陶技との認識を社会に広めていきました。一方、かれの後を追う作り手たちにとっては、このとき形成された萩茶碗の新たなスタンダード（規範）の審判を、かれらの顧客すなわち過去の茶道具に向けられた近代茶人のまなざしや趣味性に委ねることも意味していました。

### 現代の陶芸制作と茶陶

ところで、現代に茶陶を制作する作家は、全く茶陶を手掛けない作家と比べると幸せかも知れません。なぜなら、茶陶の伝統的な「かたち」のうちに隠されていた、オリジナルとコピー、本物と偽物、独創と模倣といった、支配と従属の関係性をつねに感知しながらそれを破壊するという楽しみを継続させることができるからです。

もちろん、支配と従属の関係性を敷衍していけば、現代社会の不条理ばかりか個人の深奥の闇に突き当たるでしょうが、ここでは「かたち」の認識における主体と客体の純化をどこまで求めるかにとどめておきます。それは、オリジナルとコピー、本物と贋物、独創と模倣を問うこと自体が、すでに二重性を包含する美の規範の肯定であり、ある事物が二重の意味を持って他の事物とつながっていることへの気づきとなるからです。

芸術は、人の手による技術の高みによってはじめて美を獲得することができます。その技術とは物質への能動的な働きかけであり、十分に考慮され周到に準備された、手段や道具を必要とします。しかもそれは、作り手からの一方通行の働きかけではなく、物質と向き合うことで自己の内なる物質性を発見すること、つまり物質の内に自己の精神性を感知することです。このプロセスで起こる抵抗や同意、共鳴といった精神の反応はつねに二重性を包含しており、これが「かたち」に置き換えられて作品となるのです。

「美しい『花』がある、『花』の美しさという様なものはない。」（小林秀雄「当麻」）とは、美は数多あり、しかもそれは生活空間における現実性にしかないことを教えてくれる名言だと思えますが、その「花」を咲かせる技術はじつに豊かな多様性のなかから生まれてきます。これまでに例示した茶陶と萩焼の流れは、茶

の湯と作陶の美を、生活空間の現実性に求めた無数の軌跡といえるでしょう。いわば和歌や連歌でいう「本歌取」で、高麗茶碗の造形要素を編集的に創造して独自性を求めた近世初期の頃から現代まで、切実に時代の要請で作り上げられた萩茶碗は（その他の茶陶も）いずれも美しい「花」と咲いた「かたち」なのです。

こういった意味合いで捉えられるようになると、「萩の七化」という言葉の可能性はようやく広がってきます。

それは、熟練だけでは容易に超えられない技術的な高みを諒解したとき、さらにその高みが自らの制作態度の根底にあるポテンシャルと密接な関係にあることを感得したとき、自らの制作目的を顧みて、有効な素材と技術を選別試行し、造形的洗練に邁進した末にたどり着いた「かたち」により明確に表れてくるものでしょう。これを、想像力がスタンダード（規範）という既製の囲いから溢れた瞬間、つまり制作態度の転換点と呼ぶならば、この新たな自己への変化こそ大きな「化生」といえるのではないのでしょうか。

具体的には、茶道具としての実用性や機能性を損なわず、過去の造形表現を同時代的感性のリアリティと置き換えていく行為です。もっというと、或る「かたち」を軸にして想像力を拡張させ、別の「かたち」を成そうとする方向性です。もちろん、機能美ばかりを注視する道具論的作品解釈とは対極にある造形思考で、機能を十全に満たす器形であればよいということではなく、また機能をまったく持たないオブジェを目指すものでもありません。

そのあわいに浮かび上がる、ごく自然に自己存在を表出した必然（リアリティ）のうちに、かたちの両義性を掬い取ろうとするものではないかと思えます。いまの若い作り手たちに期待する「萩の七化」の雑駁な新解釈ですが、いかがでしょうか。

石崎泰之（当館副館長）

## 潜勢力 potentiality 9人の萩の若い作家のグループ展です。

会 期 2018年10月6日(土)～11月10日(土) 休館日 10月15日(月)、10月29日(月)  
場 所 陶芸館多目的室

前期 10月6日(土)～10月23日(火)  
出品作家 岡田泰、兼田知明、坂倉善右衛門、田原崇雄

後期 10月24日(水)～11月10日(土)  
出品作家 坂倉正紘、渋谷英一、玉村信一、藤井謙次、松浦洞心

・アーティスト・トーク  
萩焼の若手作家が語ります。  
11月10日(土) 15:00～(1時間程度)

・呈茶席のご案内  
会場内で出品作家の茶碗で呈茶をします。  
会期中の土・日、10:00～15:00

2018	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
10	普通展示(浮世絵) 明治150年浮世絵に見る幕末明治⑤小林清親が描いた東京風景(10/2～10/28)																													明治150年浮世絵に見る幕末明治⑥	
	普通展示(東洋陶磁) 写しのカタチ(～11/25)																														
	普通展示(陶芸) 陶-生命の讃歌Ⅱ(～11/25)																														
	普通展示(工芸) 山口県の工芸(10/2～11/25)																														
	特選鑑賞室 東洲斎写楽 二代目中島三浦右衛門と中村富十郎(10/2～10/31)																														
	茶室 齋藤敏寿の茶室 熔結(～11/25)																														
	特別展示 彫金のわざと美 山本晃の詩想と造形(10/2～11/25)																														
11	普通展示(浮世絵) 明治150年浮世絵に見る幕末明治⑥明治新政府(10/30～11/25)																													設備改修工事のため休館 11/26～2019/3/31(予定)	
	普通展示(東洋陶磁) 写しのカタチ(～11/25)																														
	普通展示(陶芸) 陶-生命の讃歌Ⅱ(～11/25)																														
	普通展示(工芸) 山口県の工芸(～11/25)																														
	特選鑑賞室 鳥居清長 風俗東之錦 袴着(11/1～11/25)																														
	茶室 齋藤敏寿の茶室 熔結(～11/25)																														
	特別展示 彫金のわざと美 山本晃の詩想と造形(～11/25)																														
11/1～7 普通展示観覧料無料(教育・文化週間)																															
12	設備改修工事のため休館 11/26～2019/3/31(予定)																														

休館日 ★ イベント ■ 記念講演会 ● ガallery・ツアー ▲ アーティスト・トーク ■ ガallery・トーク

★イベント

月夜のナイトミュージアム

- 実施日●10月5日[金]～7日[日]  
 内容●「萩・竹灯路物語」にあわせてイベントを実施。  
 ①美術館内外を幻想的にライトアップ(5日[金]17:00～19:00)  
 ②ギャラリーツアー&ワークショップ「提灯を持って城下町を歩こう」(5日[金]17:15～18:45)  
 ③ワークショップ「折り紙でつくるちょうちん飾り」(5日[金]～7日[日]9:00～16:30)

開館記念日

- 実施日●10月14日[日]  
 内容●①特別展示「彫金のわざと美 山本晃の詩想と造形」と普通展示の観覧無料。  
 ②特別展示の開館を19:00まで延長(入場は18:30まで)  
 ③当日展覧会をご覧頂く方に美術館オリジナルグッズをプレゼント。(予定数に達し次第終了)

秋のミュージアムコンサート

- 日時●10月20日[土]13:30～14:30  
 場所●エントランスロビー  
 出演●平野郁乃(ヴァイオリン)、小野隆洋(トロンボーン)、脇淵陽子(ピアノ)  
 定員●100名程度(当日先着順)  
 料金●無料

萩美祭 2018

- 実施日●11月3日[土]～11月25日[日]  
 内容●芸術の秋を萩で楽しむイベントを実施。  
 ①萩の器×手打ちそば×地酒～長門峡～(3日[土])  
 ②萩の器×いけばな(9日[金]～13日[火])  
 ③すみずみ一赤間硯で書芸(18日[日])  
 ④萩の器×海と山の幸(18日[日])  
 ⑤トワイライトコンサート(23日[金・祝])  
 ⑥クライマックス茶会(25日[日])  
 ⑦潜勢力 potentiality 連携イベント  
 ・コーヒーとチャイ、小ぶりの茶碗で(4日[日])  
 ・萩焼の若手作家が語るアーティスト・トーク(10日[土])

「彫金のわざと美 山本晃の詩想と造形」関連イベント  
 ワークショップ「金工のわざを知る」(要観覧券/申込先着順)  
 日時●11月11日[日]13:00～16:30  
 講師●山本 晃氏(重要無形文化財「彫金」の保持者)  
 岡本 佳子氏(金工作家)

※こちらのイベントは  
定員に達したため  
応募を締め切りました

■ 記念講演会 (聴講無料/当日受付先着順)

日時●10月6日[土]13:30～15:00  
 講師●榎本 徹氏(岐阜県現代陶芸美術館顧問)  
 演題●近代の金工と山本晃  
 場所●講座室(座席数84席)

● ガallery・ツアー (担当学芸員による特別展示作品解説)

日時●10月7日[日]、10月21日[日]、10月28日[日]、  
 11月4日[日]、11月18日[日]11:00～12:00

▲ アーティスト・トーク (山本晃氏による特別展示作品解説)

日時●10月14日[日]、11月25日[日]14:00～15:00

■ ガallery・トーク (担当学芸員による普通展示作品解説)

いずれも11:00～(30分程度)  
 10月13日[土] 小林清親が描いた東京風景  
 10月27日[土] 山口県の工芸  
 11月10日[土] 明治新政府  
 11月24日[土] 陶-生命の讃歌Ⅱ

※イベントの名称、内容は変更する場合があります。詳細についてはチラシ、美術館ホームページをご覧ください。  
 ※ギャラリー・ツアー、アーティスト・トーク、ガallery・トークへのご参加には観覧券が必要です。

交通アクセス

【新山口駅から】

- 直行バス「スーパーはぎ号」(約60分)で萩・明倫センター下車、徒歩約5分
- 防長バス(約90分)で萩バスセンター下車、徒歩約12分
- 【JR山陰本線】
- JR萩駅から萩循環まあるバス(西回り)約30分
- JR東萩駅から萩循環まあるバス(東回り)約30分
- JR玉江駅から徒歩約20分

【山口宇部空港から】萩・石見空港から】

- 萩近鉄タクシー(乗合タクシー)約70～80分(利用前日までに要予約)
- 【自動車】
- 「中国自動車道」美祿東JCT経由、「小郡萩道」絵堂ICから約20分
- 「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い

